

(1) 繊維

13/12 14/13 ◎ 伸び率10%以上 ● 伸び率0~▲10%
: 天気図マーク; ● ○ 伸び率0~10% ● 伸び率▲10%以下

1. 企業経営動向

(1) 需要

- ・ 繊維の国内需要は、長引く不況の中、消費が低迷していることから、衣料品分野を中心として引き続き不振である。
- ・ 輸出も全体的に低調である。13年は前年に引き続き対前年比微増したが、14年に入ってから、2月以降、対前年比マイナスが続いている。こうした状況の中、各繊維業界において輸出拡大の動きが広がっており、様々な取り組みがなされている。

(2) 生産・設備稼働

- ・ 14年度に入ってから繊維工業全体の生産は前年に引き続き前年度比マイナスが続いている。また、在庫についても引き続きマイナスとなっている（出典：繊維統計）。生産、出荷の減少は、内需不振と東アジアを中心とした生産体制のグローバル化によって国内生産比率が低下する傾向にあることを要因としている。在庫についても、引き続き生産調整を行うことで、減少傾向が続くものと見込まれる。
- ・ 生産能力はここ5年で3/4程度に低下するなど、一貫して下落傾向にあり、12年度も前年度比▲6.8%程度低下している（出典：繊維統計）。一方、稼働率は低下傾向にあるものの、水準としては大きな変化はない。

(3) 企業収益

- ・ 企業収益は、全体的に引き続き低調である。合繊・紡績の大手主要企業でもH13年度の決算では軒並み業績が悪化した。今後も引き続き厳しい状況が続くと見込まれる。

(4) 財務

- ・ 主要企業では、借入金を減らすなど、財務体質の改善への取り組みを進めているが、全体として企業財務は引き続き厳しい状況にある。

2. 設備投資動向

(1) これまでの設備投資の推移

- ・ 繊維業界全体では、設備投資の実績は平成4年度以降ずっと前年度比割れが継続している。12年度実績額は、507.2億円（11-12共通企業46社）、対前年度比▲14.9%とマイナス。13年度実績見込み額も、516.5億円（12-13共通企業69社）、同▲13.4%と引き続きマイナス。

(2) 平成14年度の設備投資計画

- ・ 14年度の設備投資計画額は、全体としては380.9億円（13-14共通企業65社）、同▲5.3%と引き続きマイナスの見込み。

また、業種別に見ると、紡績は前年比+155%と増加の見込み。一方、染色整理はほぼ横這い、化学繊維製造業では同▲28.8%とマイナスの見込み。

- ・ 目的別投資内訳を概観すると、全体的には、更新・維持・補修の割合が高い（13-14共通企業58社においては30.6%を占める）。前年度比で比較すると、省エネルギー・新エネルギー、環境保全、研究開発のための投資が増加傾向にある。一方、生産能力増強や更新・維持・補修への投資は減少傾向である。

また、業種別に目的別投資内訳を見ると、染色整理では、生産能力増強への投資及び合理化・省力化への投資がそれぞれ約3割と高い。紡績においても合理化・省力化への投資は約2割と高くなっている。また、化学繊維製造業については、合理化・省力化への投資は8.6%と低い、研究開発への投資が他業種と比べ高くなっている（15.7%）。

3. 長期資金調達・運用動向

(1) 長期資金運用動向

- ・ 14年度計画においては、運用面では設備投資所要資金については、あまり変化がないが、投融資額が対前年比1/3程度、また、短期資金への振替も大幅に（同1/100程度）縮小された。（13-14共通企業48社）。

(2) 長期資金調達動向

- ・ 一方、資金調達方法については、14年度計画においては、借入金を減らし内部調達の範囲内で設備投資をする傾向は引き続き続いており、借入金については、7割程度削減（13-14共通企業48社）されている。

（グラフ1：設備投資の前年比の推移）

